

なぜ50代男は  
孤立死する

ノンフィクションライター  
橋由歩

③

って死んだ  
のでしょ  
う」

兄は1年  
前に弟と会

今年1月、遺品整理業  
「キーパーズ」社長の吉  
田太一さん(47)は、大  
阪支店で現場に出向い  
た。

孤立死した52歳男性の  
実兄からの依頼だった。  
「死後2カ月というのだ  
から、相当キツイ現場だ  
と覚悟して行ったら、部  
屋に入っても臭いが全く  
ない。ベッド上の布団  
にもシミがついていた。  
い。おかしいな?」と思  
いだ。だが、昨秋、携帯が  
ながらなくな  
った弟の様子  
を見に、部屋  
に来ることは  
なかったとい  
う。

臭くない



餓死した人間は

いました」

現場には兄が立ち会っ  
た。吉田さんはだんだん  
状況がのびだしてきた。  
「テレビのある場所にテ  
レビがない。ビデオデッ  
キも冷蔵庫も洗濯機もな  
い。リサイクルショップ  
へ家電を売って、生活を  
のいのでいたのではし  
う。売るものがなくなっ  
て、お金が底を突き、11  
月ごろ餓死したのではな  
いか」

吉田さんによれば、餓  
死の現場は臭いがほとん  
どないケースが多い。  
「お腹の中に物があるか  
ら死体が腐る。骨と皮に  
瘦せ細って、ベッドに横  
たわってミイラ状態にな  
る。弟は生涯独身で、正社  
員として勤務していた  
が、リストラされた。そ  
の後仕事が見つから  
ず、52歳で餓死という最  
期を迎えた。

吉田さんはこう語る。  
「餓死の現場は、仕事を  
する私たちにとっては過  
酷ではありませんが、代  
わりにある種のむなしさ  
を感じます。真面目な方  
だったでしょう。『何  
日も食べてないです、助  
けてください』とは、恥  
ずかしくて言えなかった  
のでは……」

(つづく)

※「年金では生きられない」は休載します